学校だより



こおりやま

https://www.edu.city.suzuka.mie.jp/eskoriyama/

鈴鹿市立郡山小学校 発行 校長 松岡 宏樹 令和 6 年 12 月 17 日 No. 17

第4回 学校運営協議会 兼 学校保健委員会

12月5日(木)に学校保健委員会を兼ねて、第4回学校運営協議会を行いました。 学校から児童の健康状態や保健室利用状況等について報告した後、薬剤師の前田先生より、薬剤耐性についてなどの講話をしていただき、最後に質疑応答や意見交換を行いました。

≪細菌とウイルスの違い≫

・細菌による病気 肺炎、中耳炎 抗菌薬 (抗生物質)



- ・抗菌薬は細菌に効果が ある薬
- ・風邪には効果がない

・ウイルスによる病気 風邪、インフルエンザ 抗菌薬 (抗生物質)



・薬剤耐性菌が発生する ・もし、症状が治ったとし ても、それは、自分自身 の免疫による力

≪養護の佐久間先生より≫

抗菌薬(抗生物質)を正しく飲まないと、 副作用が出たり、薬剤耐性菌が増える原因になります!

薬剤耐性菌が増えると、本当に必要な時に抗菌薬の効果が得られなくなります。そうすると、感染症の治療や手術時の感染予防が難しくなるだけでなく、臓器移植、抗がん剤治療など、さまざまな医療が難しくなります。

やっていませんか?こんなこと…

- ●不必要な時に抗菌薬(抗生物質)を飲む
- ●余った抗菌薬を残しておいて、別の機会に飲む
- ●処方された抗菌薬を途中で飲むのをやめる
- ●ほかの人に抗菌薬をあげたり、もらったりする

自分に処方された 抗菌薬(抗生物質) を医師の指示通り に飲みましょう!

◎感染症予防のため、手あらいをしっかり行いましょう!

手洗いは感染症予防の基本です。体の中にバイキンを入れないために、石けんと流水でていねいに手を洗いましょう。

指と指の間



川や指先 -

すみずみまで しっかりと!



いじめ防止川柳の取組

三重県いじめ防止条例で4月と11月を「いじめ防止強化月間」として、社会総がかりでいじめ問題を解決するために取り組んでいます。鈴鹿市教育委員会でも、いじめ問題を個人や当事者間の問題にするのではなく、社会全体の問題としてとらえる機会として、いじめを生まない環境や社会づくりを目的にピンクシャツ運動を実施しています。その取組の中の一つとして、天栄中学校区で、いじめ防止川柳に取り組んでいます。

≪Ⅰ年生≫

- ・先生にいってくる だいじょうぶ なかないで
- ・いっしょにあそぼ 気にしないで みんないるよ
- ・もうやめて みんなないているよ

わるいことしない

・きにしないで きっとのりこえられるよ

だいじょうぶ

・やめなさい やめてください やめてくれ

≪3年生≫

- ・ともだちが たいせつならば ちゅういしよ
- ・みんなでね やさしいことば いってみよう
- ・やめようよ そのひとことで いじめなし
- ・たすけよう みないふりせず とめようよ
- ・いじめゼロ 心をすくう 助け合い

≪5年生≫

- ・いじめなし 心の傷は 治らない
- ・ごめんねと 一言言える その勇気
- ・好きなもの かくさなくても いいんだよ
- ・ふざけでも いやがっていたら いじめだよ
- ・大丈夫 相談しよう 友達に

《2年生》

- ・みんなでね めざしていこう いじめゼロ
- ・いじめだめ いじめをしたら あやまろう
- ・いじめなし みんななかよし いいクラス
- ・いじめダメ なかよくしよう みんなでね
- ・いじめなく へいわなせかい うれしいね

《4年生》

- ・いじめとは 絆をひきさく こわいもの
- ・言葉はね 一番危ない 凶器だよ
- ・大丈夫 みんなが仲間 味方だよ
- ・いじめだめ 心にのこる 悪口だ
- ・いじめはね 一度言ったら もどらない

《6年生》

- ・イジメダメ バチがあたるぞ あやまりな
- ・「やめて」 感謝を増やそ ありがとう
- ・幸せを ひとりひとりに 「言の葉」に
- ・「やめなよ」と 言えないならば 共犯者
- ・世の中を 至福にするには いじめゼロ

●生成 AI に尋ねてみました。

小学生の子どもをもつ親の悩みです。自分の子どもがいじめの加害者にならないように したいです。親としてどのように関わればよいですか?

- ・価値観の共有:「みんな違って当たり前」「誰かを傷つけることはよくない」と言った 基本的な価値観を、日ごろから言葉で伝えましょう。
- ・**多様な価値観への理解**:異なる考え方や価値観を持つ人々がいることを教え、相手を 受け入れることの大切さを伝えましょう。
- ・状況に応じた対応: いじめに関するニュースや出来事があった際には、それらをきっかけ に、お子様と一緒に対処法や解決策について話し合ってみましょう。
- ・相談しやすい環境づくり:子どもたちが何か困ったことがあった時、いつでも相談できるような暖かい雰囲気を作ることが大切です。